

肺炎球菌多糖類ワクチン

知っておきたいこと

Many Vaccine Information Statements are available in Spanish and other languages. See www.immunize.org/vis
多くのワクチン情報文書がスペイン語その他の言語で準備されています。
www.immunize.org/visをご覧ください。

1 なぜワクチン接種が必要ですか？

ワクチン接種により、高齢者（および特定の子供と大人）の肺炎球菌感染症を予防することができます。

肺炎球菌感染症は細菌が原因の病気で、密接することで人から人へ感染します。耳の感染症の原因となり、次のようなより深刻な感染症に進展する場合があります：

- 肺（肺炎）、
- 血液（菌血症）、
- 脳と脊髄を包む髄膜（髄膜炎）。髄膜炎は聴覚障害や脳障害の原因となり、死に至る場合もあります。

肺炎球菌感染症は誰でもかかりますが、2歳未満の子供・特定の健康状態にある人・65歳以上の成人・喫煙者の間で感染の危険が最も高くなっています。

毎年米国では、18,000人の高齢者が肺炎球菌感染症により死亡しています。

従来、ペニシリンその他の薬が肺炎球菌感染症の治療に効果的でした。しかし、菌株の中にはこれらの薬剤に耐性を持つものが出てきました。ワクチン接種による感染症を予防することが一層重要です。

2 肺炎球菌多糖類ワクチン (PPSV23)

肺炎球菌多糖類ワクチン (PPSV23) を接種することで、23種類の肺炎球菌から予防が可能です。全ての肺炎球菌感染症を予防するものではありません。

以下の人々に、PPSV23の接種が推奨されています：

- 65歳以上の高齢者、
- 2-64歳までで長期の健康問題を抱えている場合、
- 2-64歳までで免疫系が弱っている場合、
- 19-64歳までの喫煙者または喘息患者。

ほとんどの場合、PPSVの接種は1回のみ必要です。特定の高リスク群には第2回目の接種が推奨されています。65歳以上の高齢者は、65歳になる前に1回または複数回の接種を受けていても、再度の接種が必要です。

推奨内容についての詳細は、医師にお尋ねください。

健康な成人であれば、ほとんどの場合接種後2-3週間で免疫がつかます。

3 ワクチン接種を避けなければならない場合

- PPSV接種後に、生死に関わるアレルギー反応が見られた場合、以降の接種はできません。
- PPSVワクチンの成分に強いアレルギー反応がある場合、ワクチンを接種してはいけません。何らかの強いアレルギーがある場合は、医師にお伝えください。
- 接種時に中程度または重度の病気にかかっている場合、回復するまでワクチン接種を待つよう指示される場合があります。病気が軽い場合であれば、通常はワクチンを接種してもかまいません。
- 2歳未満の幼児はこのワクチンを接種してはいけません。
- PPSV接種が妊婦や胎児に有害であるという証拠は全くありません。しかし念のために、可能であれば予防接種が必要である女性は妊娠前に済ませておくべきです。



4 ワクチンの副反応のリスク

薬の副作用と同様に、予防接種にも副反応が見られる場合があります。これらの症状は通常軽く、自然に治まりますが、深刻な反応が見られる場合もあります。

PPSV接種者のおよそ半分が接種部分の赤みや痛みなど軽度の副反応を経験し、約2日でこれらの症状は治まります。

100人中1人以下が発熱・筋肉の痛み・より重度な局所反応を経験します。

ワクチン予防接種後に想定される問題:

- 予防接種などの医療処置を受けた場合、気を失う場合があります。15分程度座る、または横になることで失神を避け、転倒してけがをすることが防げます。目がくらんだり、視野に変化があったり、耳鳴りがする場合は医師に知らせてください。
- 接種後に肩に激痛があったり、接種した方の腕が動かしくくなる場合があります。これらが見られる場合は非常に稀です。
- どのような薬も強いアレルギー反応を引き起こす可能性があります。ワクチン接種によるこのような反応は非常に稀で、100万回に1回程度で、接種後数分-数時間で発生するものとされています。

他の薬と同様、ワクチン接種が深刻なけがや死亡の原因となる可能性は非常に低くなっています。

ワクチンの安全性確認は常に行われています。詳細はwww.cdc.gov/vaccinesafety/をご覧ください。

5 重大な反応があった場合には?

どのようなことに注意せねばなりませんか?

強いアレルギー反応・高熱・行動の変化などがなければ注意して観察してください。

強いアレルギー反応として、蕁麻疹・顔と喉の腫れ・呼吸困難・心拍増加・めまい・虚弱などがあげられ、通常接種後数分-数時間後に現れます。

何をすべきですか?

強いアレルギー反応その他の緊急事態と考えられる場合には、救急車(9-1-1)を呼ぶか最寄りの病院で受診してください。それ以外の場合は、主治医に連絡をしてください。

その後、アレルギー反応をワクチン有害事象例報告データベース (VAERS) へ報告する必要があります。医師が報告する場合がありますが、VAERSのウェブサイトwww.vaers.hhs.govで、または電話1-800-822-7967での自己報告も可能です。

VAERSでは医療に関する診断は行いません。

6 より詳しく調べるには?

- 医師にお尋ねください。ワクチン添付文書やその他の情報源について助言を受けることができます。
- お住まいの地域か州の保健局に連絡ください。
- 疾病対策センター (CDC) にご連絡ください:
 - 1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO) まで電話か、
 - CDCのウェブサイトwww.cdc.gov/vaccinesをご覧ください

正確な予防接種状況、予防接種についての評価、今後の予防接種の推奨スケジュールを医療提供者に提供するため、情報はMichigan Care Improvement Registry (ミシガン幼児予防接種記録所)に送られます。予防接種情報が同記録所に送られないよう医療提供者に要請できる権利が誰にでもあります。

DCH-0468J

AUTH: P. H. S., Act 42, Sect. 2126.

Vaccine Information Statement - Japanese
PPSV Vaccine

4/24/2015

Office Use Only



Translation provided by the Oregon Health Authority